

## 令和5年度 韓国漢陽大学校薬学大学との国際交流

河原昌美・李 辰竜

薬学部国際交流委員会

### はじめに

愛知学院大学薬学部は、韓国の漢陽大学校薬学大学と学術交流協定を結んでいる。新型コロナウイルス感染症の流行により、令和2年から令和4年まで、交流が中断していたが、ようやく交流が再開できることになり、令和5年8月7日（月）から8月10日（木）まで、韓国薬学研修を実施した。4年ぶりの韓国研修について報告する。

### 1. 参加者

1～5年次生を対象として募集し、選考の結果、下記、表1に示す12名の薬学部学生が参加、2名の教員が同行した。

表1. 参加学生と引率教員

参加学生		
学年	学籍番号	氏名
1年生	23A017	伊藤 萌乃
2年生	22A022	大石 尚史
2年生	22A037	加藤 志菜
2年生	22A068	佐藤 大歩
2年生	22A159	山本 伊織
3年生	21A007	安藤 鞠里
3年生	21A041	木下 知樹
3年生	21A044	計良 桃子
4年生	20A008	有賀 裕晃
4年生	20A044	小谷 ゆら
5年生	19A031	小野 優花
5年生	19A099	林 穂乃香
引率・参加教員		
臨床薬学講座	河原 昌美	教授
衛生薬学講座	李 辰竜	准教授

### 2. 研修日程とスケジュール

研修スケジュールは表2に示す通りである。8月7日に中部国際空港から大韓航空で出発

し、8月10日に帰国した。

表2. 研修スケジュール

日時	スケジュール	場所	
8/7 (月)	9:15	名古屋出発	中部国際空港
	11:25	仁川到着	ソウル（仁川）国際空港
	14:00	ホテル着	ホテルスカイパーク明洞2
		休憩及び夕食	明洞周辺
8/8 (火)	8:30	移動	
	9:30	漢陽大学校大学病院	ソウル特別市城東区
	11:00	移動	
	11:30	韓方剤市場/韓方博物館/昼食	ソウル特別市東大門区
	15:00	移動	
	15:30	ソウル大学医学博物館	ソウル鍾路区
	18:00	夕食	明洞周辺
8/9 (水)	9:00	移動	
	10:00	GC Biopharma 研究所	京畿道龍仁市器興区
		見学	
	11:30	移動&昼食	漢陽大学校食堂
	13:30	漢陽大学校薬学大学 連携薬局見学 懇親会	京畿道安山市
	22:00	ホテル着	
8/10 (木)	10:00	反省会・報告打ち合わせ	ホテル周辺
	12:00	自由時間	
	14:00	仁川航空へ	
	19:05	大韓航空にて名古屋へ	仁川国際空港
	20:55	中部国際空港着・現地解散	中部国際空港

### 3. 研修内容

初日は、ソウルに到着後、周辺の散策と翌日からの打ち合わせ後、夕食を取った。2日目は、漢陽大学校大学病院を訪問、病院の概要や特徴、薬剤部の業務内容等の講義を聞き、漢陽大学薬学部の学生4名と情報交換を行った。彼らは、実務実習終了後に、さらに病院でのアドバンス研修を選択した学生たちだった。韓国では、実務実習の後、研究所、公的な役所や保健所、市中の薬局、病院など自分で研修先を選択し、アドバンス研修を行うことにな

っている。漢陽大学病院を選択した理由や、将来の希望、薬学の勉強のことなど、愛知学院の学生たちとさまざまな意見交換を行った。漢陽大学校大学病院は、再生医療とその臨床試験に力を入れているという特徴があり、ロシアやカザフスタンからの患者も多いため、ロシア語の通訳が常駐している。業務内容は、日本とほぼ同じであり、NST、ICT、NICU、がんなどさまざまなチーム活動もしているということだった。抗がん剤のミキシング、麻薬調剤、散薬調剤、注射調剤業務も見学させてもらった。

午後から、韓方剤市場、韓方博物館を訪れた。地下鉄東大門の駅では、改札を出たすぐの所に、韓方薬の標本、歴史的な韓方薬の調剤器具などが展示されているコーナーがあった。東大門区では、韓方博物館につながる韓方剤市場に、たくさんの韓方剤のお店が軒を連ねており、朝鮮人参が山積みになっていたのが印象的だった。韓方博物館では、韓方薬に関する歴史、韓方薬の展示、昔の村の再現など興味深い内容の展示を見学、「韓方薬」と「漢方薬」では、処方内容が異なるということも学んだ。その後、ソウル大学医学博物館を訪れ、医学に関する歴史的な展示を見学した。

3日目は、バスでGC Biopharma 研究所を訪れた。郊外の広大な敷地に、工場、研究所があり、とても緑の多い環境だった。研究所のエントランスは観葉植物に囲まれ、ガラス張りの建物に日が注ぐ光景に圧倒された。夏休み期間ということで、研究所の職員は少なかったが、最新の設備が整った研究所で高いアクティビティで研究が行われている様子だった。会議室で会社の概要説明を受けたが、1967年に設立された韓国第二位の製薬企業であり、血液製剤が35%、ワクチンが25%、OTC薬が21%を占めていること、最近はワクチン開発に力を入れているということだった。福利厚生が充実しており、敷地内に職員専用の診療所があり、カフェや食堂も充実していて、しかも無料ということで驚いた。

午後は、バスで漢陽大学校薬学大学近くに移動し、薬剤師会連携薬局や市中の調剤薬局も見学した。韓国は医薬分業率が100%で、処方箋調剤、患者指導などで多忙な様子だった。特記すべきこととして、一包化が主流で、薬包紙に服用時期と氏名が印字されることから、薬袋が存在しないと説明された。その後、漢陽大学校薬学大学に移動し、合同のシンポジウムとなった。(表3参照)双方のあいさつと紹介に続き、学生たちによる大学生活や授業などの英語での紹介、李先生とJOO先生の研究内容のプレゼンテーションが行われた。漢陽大学の学生もたくさん参加しており、終了後には交流会が開催された。交流会では、愛知学院大学と漢陽大学の学生達が同じテーブルで焼肉を食べながら、英語や韓国語で楽しく交流をしていた。

最終日は反省会后、空港へ移動した。あいにくと、当日は台風が韓国を直撃する天気予報で、雨が降る中、バスで空港へ向かった。私たちの乗る飛行機は、ちょうど台風がソウル上空を通過する時間に出発予定で、予定通り帰国できるか不安だったが、大幅な遅れもなく、無事に帰国することができた。

#### 4. 所感

参加した学生たちは、韓国の薬学事情、薬学教育、医療現場での薬剤師の役割だけでなく、最先端の企業の見学や漢方市場の見学を通して、貴重な体験をすることができた。特に漢陽大学の学生たちとの交流では、言葉の違いを超え、つきることなく語り合い、笑いあっていた姿が大変印象的だった。今回の研修を通して、学生たちは国際感覚を養い、実際の体験からしか得られない多くのことを学んだと思う。この経験は、自身の将来を考える上でも役立つであろう。ようやく再開できた韓国研修は、大変有意義だったと感じている。今後も本学と漢陽大学が、良好な関係を継続していけることを期待している。

本報告の終わりにあたり、国際交流にご協力とご支援を頂いた漢陽大学校薬学大学、ならびに本学関係各位に心より感謝申し上げます。

表 3. 交流会スケジュール

	時間	内容	場所および担当
I 部	12:30 - 13:30	昼食	教職員食堂
II 部	13:30 - 15:30	地域薬局訪問	大学周辺
	16:00 - 16:15	Welcome Ceremony	Dean Kim
	16:15 - 16:20	挨拶 AUG	河原
	16:20 - 16:30	HYU 紹介ビデオ	
	16:30 - 16:35	Campus Life in AGU	AGU 2 年生
	16:35 - 16:40	Curriculum of School of Pharmacy in AGU	AGU 5 年生
	16:45 - 16:50	Curriculum of HYU	HYU 学生
	16:50 - 16:55	Campus Life in HYU	HYU 学生
III 部	17:00 - 17:20	Research presentation	李 辰竜先生
	17:20 - 17:40	Research presentation	Dr. Jaeyeol Joo
IV 部	18:00 - 21:00	交流会	大学周辺



